

保育士・幼稚園教諭 イメージ調査報告書 【概要版】



保育士や幼稚園教諭のイメージ向上に向け、
高校生などを対象に調査を実施し
調査結果等をAIに学習させ、高校生の職業選択の傾向などを分析しました。
本概要版では、調査内容の一部を抜粋してご紹介します。

調査概要

(1) 目的

高校生や養成校生、その保護者の保育士のイメージ、職業選択で重視していること等について調査し、AIによる分析を行うことで、今後の保育人材確保策やイメージアップ手法に資することを目的とする。

(2) 設計

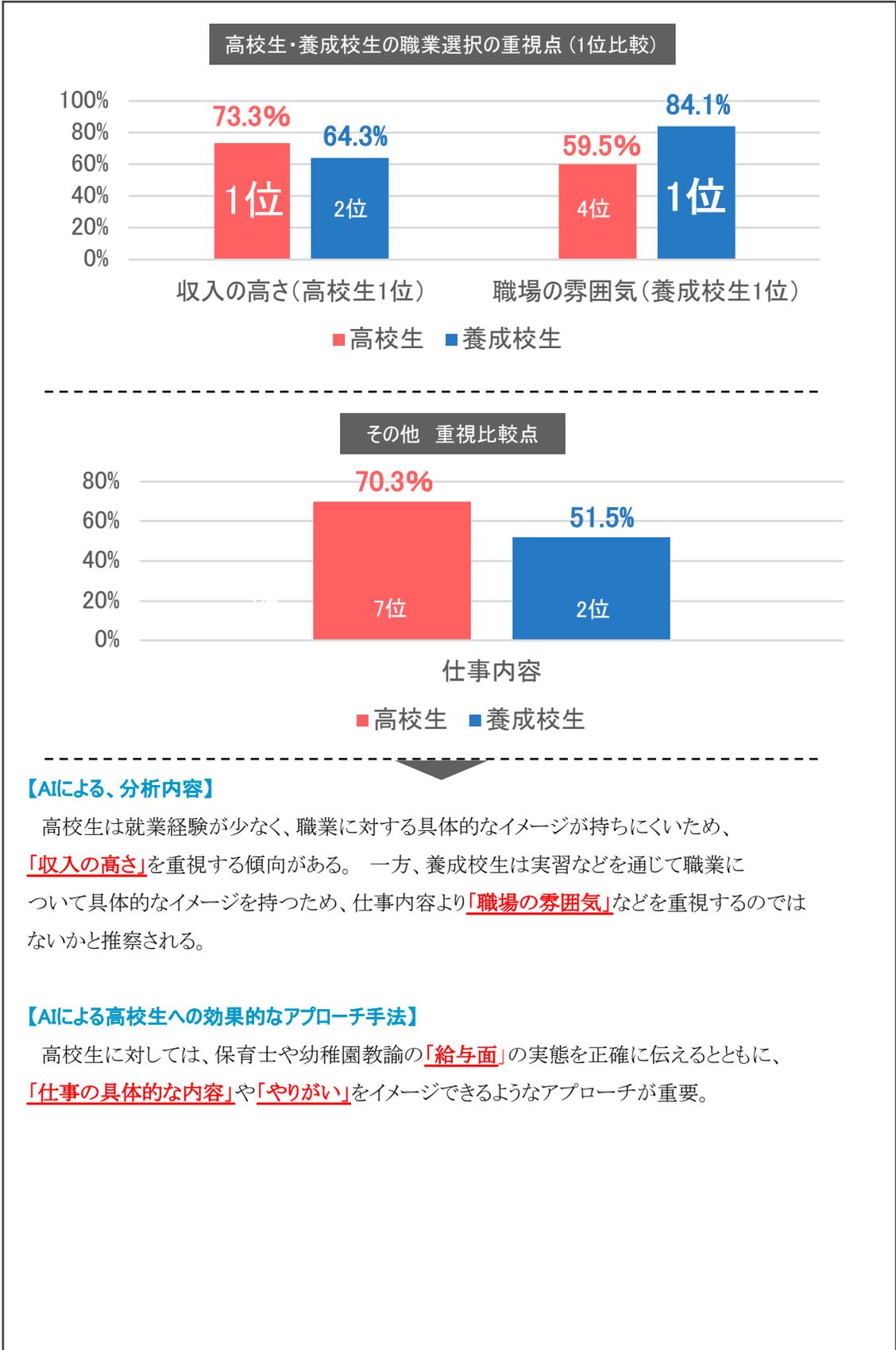
【高校生/保護者向け】

- ① 調査地域 札幌市内
- ② 調査対象 高校生
高校生の子どもを持つ保護者
- ③ 標本数 高校生 400人
高校生の子どもを持つ保護者 400人
- ④ 調査方法 LINEリサーチプラットフォームによるアンケート調査
- ⑤ 調査期間 令和6年12月10日(火)～令和6年12月12日(木)

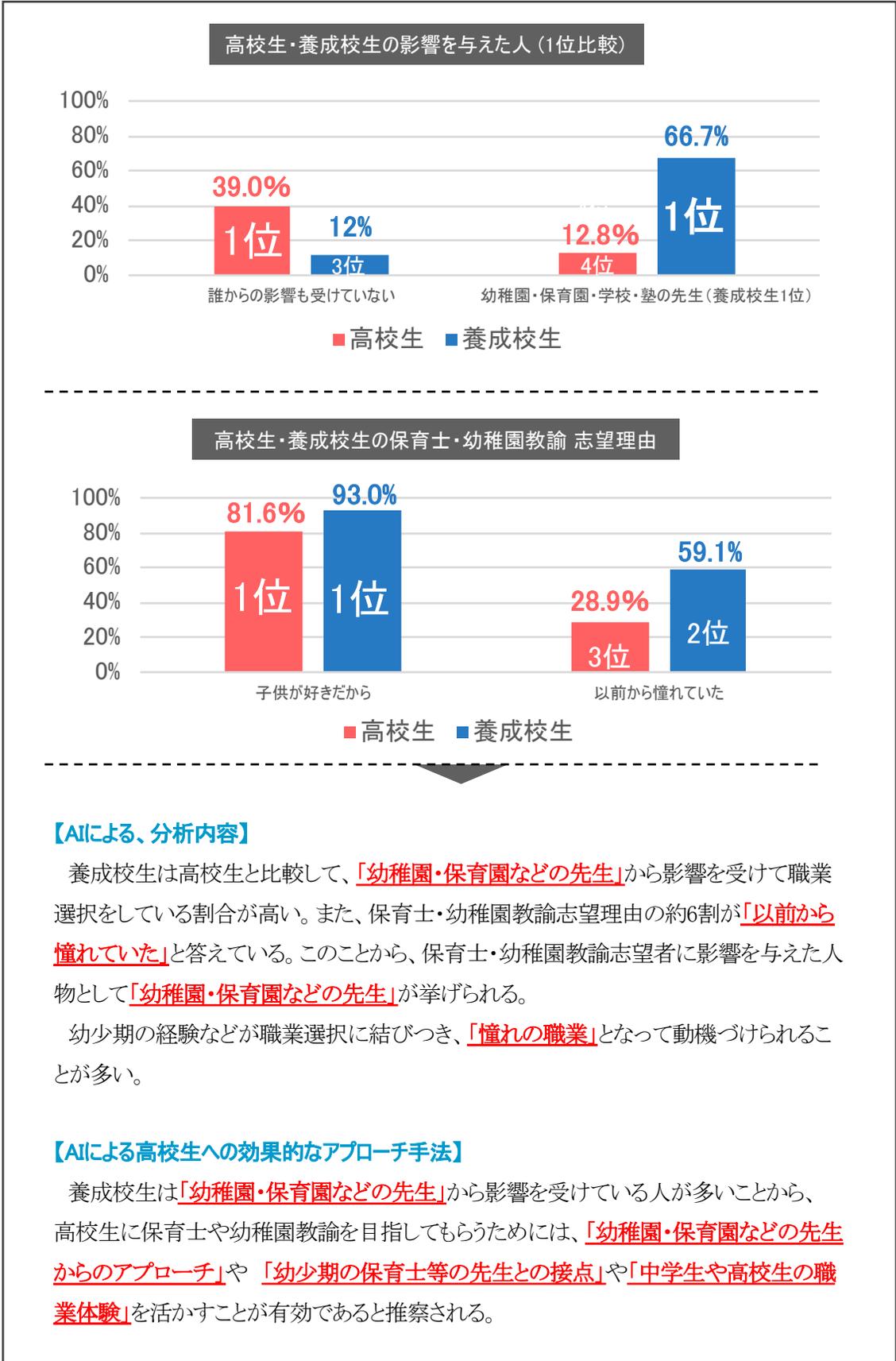
【養成校生/保護者向け】

- ① 調査地域 札幌市内
- ② 調査対象 札幌市内の指定保育士養成施設の在学生(養成校生)
養成校生の子どもを持つ保護者
- ③ 標本数 養成校生 540人
養成校生の子どもを持つ保護者 49人
- ④ 調査方法 アンケートASP
- ⑤ 調査期間 令和6年12月10日(火)～令和6年12月27日(金)

1 職業選択の重視点の分析



2 職業選択で影響を与える人の分析

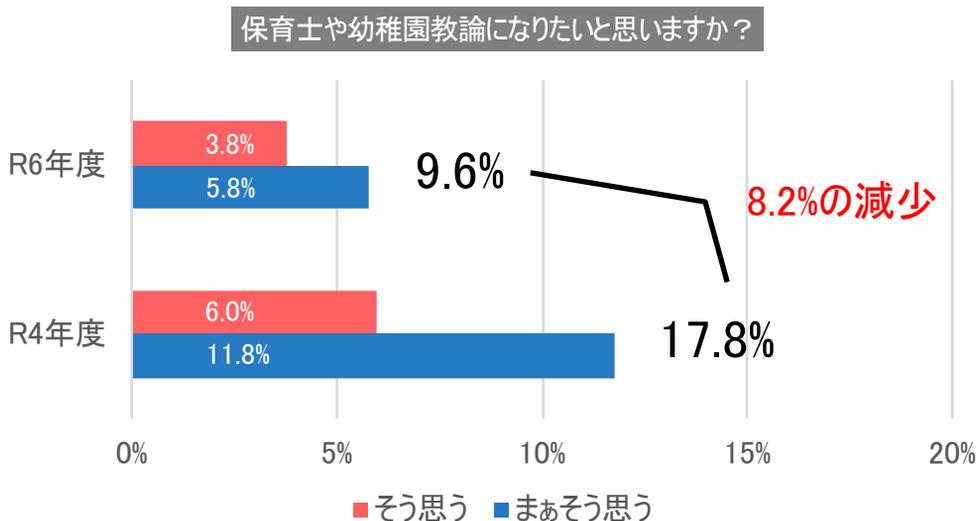


3 将来、保育士や幼稚園教諭を志望している層の分析

【AIによる、分析内容】

令和6年度の市内の高校生は約4万人。また、「あなたは将来保育士になりたいですか？」という問いに対し、高校生は「そう思う」「まあそう思う」を合算すると9.6% (約3,920人)が保育士や幼稚園教諭を目指してもよいと推計できる。

一方で、市内の養成校に進学している人数は1,669人と、2,251人の開きがある。



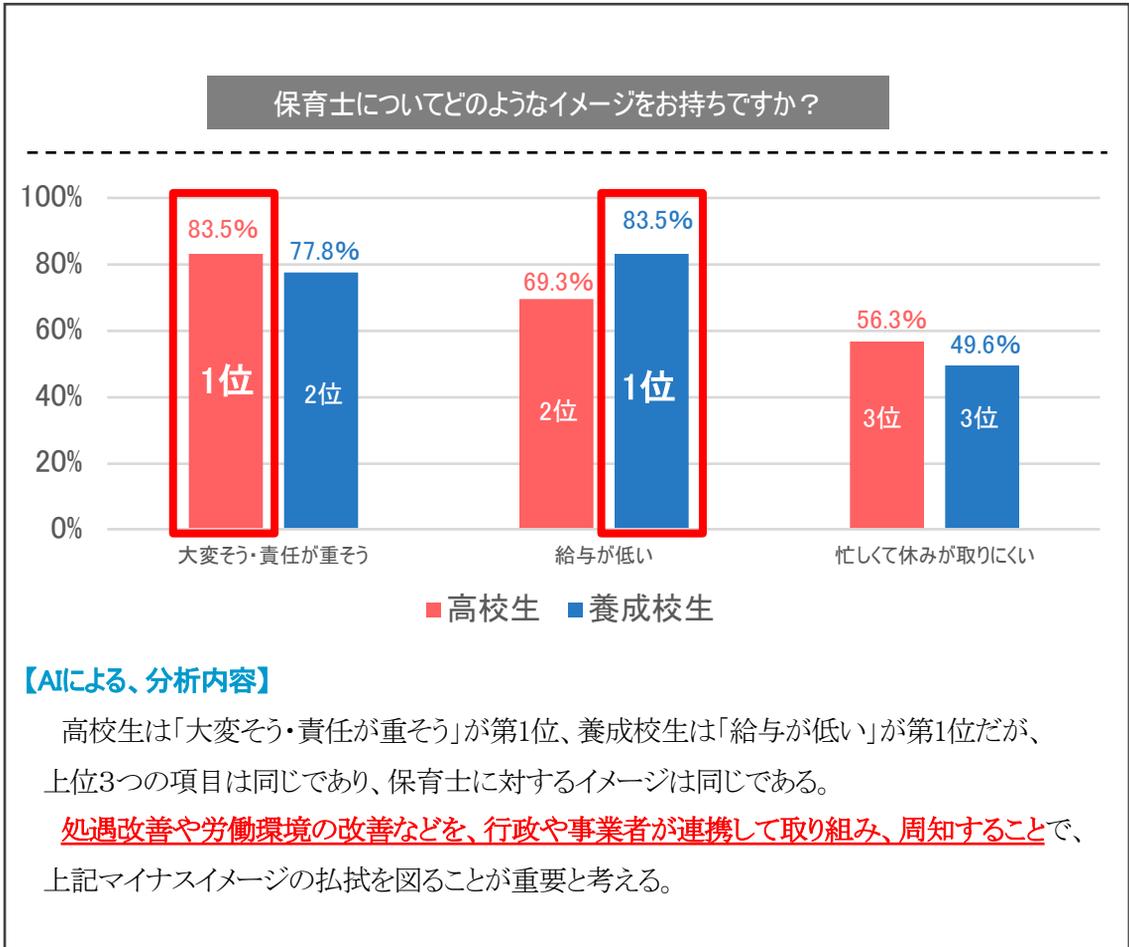
「保育士や幼稚園教諭になりたいと思いますか？」という質問に対して、令和4年度の調査では17.8%であったが令和6年度は減少しており、インターネットやSNSなどで、保育業界のネガティブなニュースの多さも要因の一つと推察される。

【AIによる高校生への効果的なアプローチ手法】

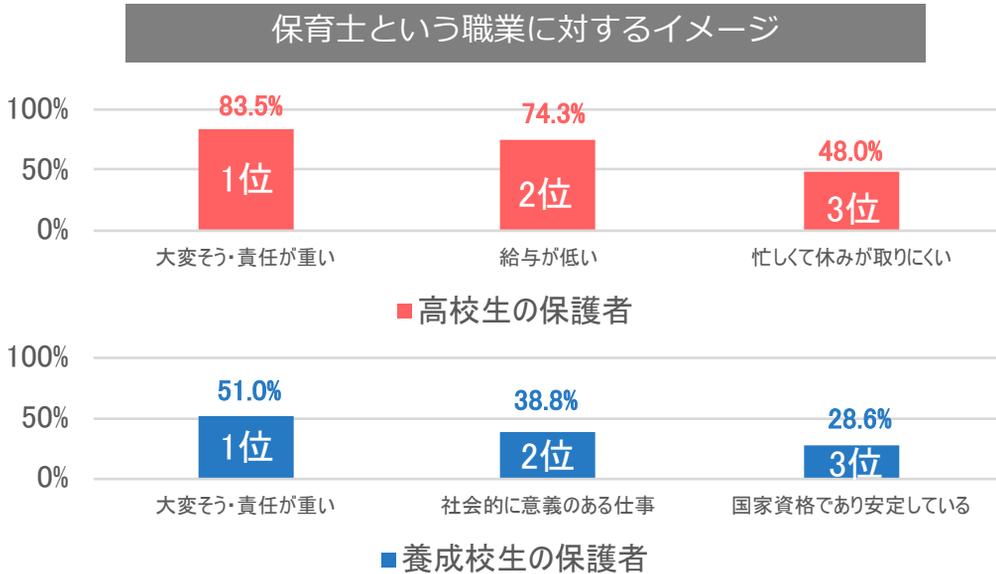
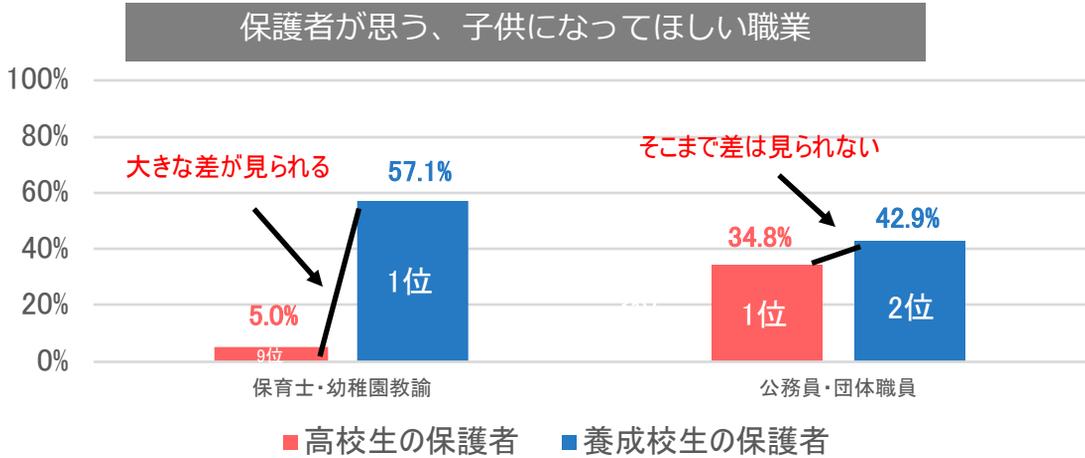
保育士・幼稚園教諭を目指してもよい層は約3,920人と実際に養成校に進学した人は1,669人で2,251人の差があり、この2,251人は保育士・幼稚園教諭を目指す可能性の高い層ともいえる。

この層に対して「幼稚園や保育園の先生によるアプローチ」や「給与面や仕事の内容」を具体的に伝えることで、より効果的な周知が可能と推察される。

4 保育士に対するイメージについての分析



5 子供になって欲しい職業からの分析



【AIによる、分析内容】

高校生・養成校生の保護者ともに、安定した職業を希望する傾向が強い。
 養成校の保護者は、保育士・幼稚園教諭は国家資格であり、安定したイメージを持っていると推察される。

【AIによる高校生への効果的なアプローチ手法】

高校生の保護者には、安定した職業であることを周知することが効果的であるため、保育士・幼稚園教諭の就職のしやすさや国家資格の強みを周知することが有効であることが推察される。また、保育士には公立園の保育士(公務員)の選択肢があることを周知することも有効と推察される。

AI による施策のまとめ

施策1 保育士や幼稚園教諭とのつながりを活かしたアプローチ

高校生に保育士や幼稚園教諭を目指してもらうには、幼少期につながりのある「幼稚園や保育園の先生」など子どもの頃にあこがれた教育者と連携した取組が効果的である。「幼稚園・保育園などの先生」からのアプローチや「幼少期の保育士等の先生との接点」や「中学生や高校生の職業体験」を活かすことが有効であり「憧れる職業」として興味を喚起する方法が効果的と考える。



施策2 事実に基づいた正確な情報の提供

「保育士の給与水準が低い」「過酷な労働環境」というイメージの払拭に向け、正確な情報提供を行う。

具体的には、保育士・幼稚園教諭の最新の給与や労働環境、仕事の内容・やりがいなどの具体例を紹介し、透明性を確保することで、高校生が情報をキャッチできる環境を作る。



施策3 SNSの活用

保育士・幼稚園教諭を目指してもよいと考えている層への周知を強化することが効果的である。高校生が多く利用しているSNS媒体を活用し年齢、性別、地域でターゲットングし、顕在層に向けて広告を配信することが効果的なアプローチの一つと言える。

さらに、高校の教員や保護者に向けたアプローチも有効であり、教員や保護者を通じて、情報が生徒に伝わることで、より多くの人々にアプローチできると考えられる。



施策4 アプローチ方法の工夫

高校生の保護者に対し、保育士・幼稚園教諭が安定した職業であることを認識してもらうことが効果的である。

そのため、就職や転職のしやすさ、国家資格としての強みを伝えることが重要だと考える。

また、保育士には公務員という選択肢もあることも周知すると効果的である。



施策5 保育・幼稚園業界における働きやすい職場環境の確立

業界全体における職場環境の改善を目指し、業界全体で「仕事が過酷で休暇が取れない」といった負のイメージを払拭するため、実際に改善されつつある労働環境について、具体的な事例を伝える。

加えて、優れた労働環境を実現しているロールモデルとなる施設や園を紹介し、保育園や幼稚園などにおける働きやすい職場環境を確立していく。